

様式第1号（第6条関係）

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第4回坂戸市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和2年2月21日（金） 午前10時00分 開会 午前11時15分 閉会
開 催 場 所	坂戸、鶴ヶ島上下水道合同庁舎A・B会議室
議長（委員長・ 会長）の氏名	竹下 玲
出席者（委員） の氏名・出席者数	新井 由基夫、横山 静香、町田 満、和田 幸江、 渡邊 久美子、鴨志田 加奈、竹下 玲、本間 絹江、 高橋 公子、落合 勇、小川 君子  計11名
欠席者（委員） の氏名・欠席者数	西村 早苗、村居 江里、榛原 美枝子  計3名
事務局職員の 職・氏名	福祉部長 市原 真一 福祉部次長兼子育て支援課長 柴崎 慎二 福祉部副参与兼保育課長 井上 晋 子育て支援課副課長 山地 哲也、同児童担当課長補佐 関根 則 子、同支援担当係長 山崎 卓也、同支援担当主任 橋本 拓也 保育課保育担当係長 榊田 英幸 地域計画（株）企画計画室研究員 石原 拓哉
会 議 次 第	1 開 会 2 会長挨拶 3 議 事 （1）第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた市民 コメントの結果について （2）第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（案）について （3）その他 4 閉 会

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"><li>○次第</li><li>○第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（素案）に係る市民コメントの実施結果について（資料1-1）</li><li>○第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対する意見・要望とその対応（資料1-2）</li><li>○第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（案）（資料2）</li><li>○第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画概要版（案）</li></ul>
---------	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進行（事務局）	1 開会
	2 会長挨拶
進行（会長）	3 議事
事務局	<p>(1) 第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた市民コメントの結果について</p> <p>※資料（第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（素案）に係る市民コメントの実施結果について（資料1-1）、第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対する意見・要望とその対応（資料1-2））に基づき説明</p>
委員	<p>市民コメントの意見提出者が3人というのは、少ないように感じる。この件に関しての市の見解は。</p>
事務局	<p>御指摘のとおり意見の提出者が少ないと感じるが、他の計画の市民コメント提出者数と同数程度となる。</p> <p>複数施設への意見投函箱の設置、メールや郵送での提出を認めることにより提出者数の増加を図っているところであるが、更なる工夫に関しては、全庁的に研究する必要があると考えている。</p>
事務局	<p>(2) 第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（案）について</p> <p>※資料第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（案）（資料2）に基づき説明</p>
委員	<p>乳幼児期の発達障害の早期発見のため、乳幼児家庭全戸訪問時に臨床心理士も訪問させる必要と考えるが、市の見解はあるか。</p>
事務局	<p>市民健康センターにて乳幼児健診を実施しており、その中で医師や保健師等が発達の心配を感じた場合は、同じく健康センターで実施している「すく</p>

委員	<p>すく発達相談」を紹介している。</p> <p>「すくすく発達相談」では、医師や臨床心理士等が子どもに関する相談を受けている。また、子育て支援課においても、グループ指導教室を開催し、児童発達を含めた相談等に対応している。</p>
事務局	<p>0歳～1歳児の保育のニーズが高いと思われるが、市の見解は。</p> <p>本計画では、不足している0～2歳児の保育所の確保方策を令和6年度に充足させる計画としている。</p> <p>ただし、育休を取得できない事情がある家庭で、量の見込みが不足しているために会社を退職することは、市としても防止していきたいと考えている。今後、個別対応等で様々な意見を拾い、状況に応じて確保方策の見直しも検討していきたい。</p>
委員	<p>親が就労を続けるためには、子どもを預ける必要性は重要視しなければならない。</p> <p>このことは、保護者の就労の状況や経済的な問題と関連しているため、より深くニーズを理解するべきだと考える。</p>
事務局	<p>アンケート調査結果の中には、一定の年齢までは自分で子育てをしたいと考えている方も伺える。</p> <p>人口動態をみると平成27年から31年にかけて児童人口は減少しているが、保育所等の申込比率は増加傾向にある。今後は、福祉政策や労務政策と協力して保育の整備に努めていく。</p>
委員	<p>アンケート調査結果の概要の中で、「小学校高学年時の放課後の過ごし方について」に対する8割の回答者が放課後児童クラブを希望しているが、現場の感覚からすると、違うように感じる。実際の現場の状況や課題も考慮しながら考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>放課後児童クラブに関しては、制度として浅いものとなるため、時代の変化に伴った対応策を検討していく必要があると考えている。</p> <p>長期休みのみの預かりの実施(1か所)や来年度から国庫補助金を活用し、アドバイザースタッフを放課後児童クラブにも配置する予定でいる。</p>

委員	<p>教育と保育の視点をより広げていく必要があると感じた。北区では、放課後児童クラブの範囲を中学生まで拡充し、そこに高校生が来て学習を教えている。また、杉並区では公民館を有効活用して、高校生が自主的に居場所づくりし、そこに小中学生も混ざっている。今後は、範囲や場所等を限定せず、状況に応じた施策が必要なのではないかと思われる。</p>
事務局	<p>放課後元気教室ということで現在モデルケースを実施している。この事業については、ボランティアと協働し活動している。</p>
委員	<p>計画の最終年度に向け、保育士等の整備も進めていくと思うが、有資格者である保育士の確保が課題であると思われるが、市の考えを知りたい。</p>
事務局	<p>量の見込みを考える上では、ハード面とソフト面を整備していかなければならない。近年は、公定価格が上昇しているのと、認可保育所の保育士に対して、市独自の補助として給料の加算を行っている。具体的には、民間保育所では月に1万円の補助を保育士に対して行っている。</p>
委員	<p>都内に保育士が流出している傾向が伺える。 質の高い保育士を確保するためには、本市における特徴的な保育の内容等を市内外にPRし、坂戸市で働きたくなるきっかけを作っていく必要があると考える。</p>
事務局	<p>保育士の確保は、非常に困難な状況となっているため、他部署とタイアップし、ハローワークでの就職説明会を実施している。</p>
委員	<p>給食の自校式は安定して供給されているか。 また、地産地消、アレルギー対策について伺いたい。</p>
事務局	<p>学校の給食だけでなく、公立保育園も全て自園で食事を作っている。 地産地消に関しては、公立保育園ではできるだけ地元のものを使用するようにし、納品書には産地の記載欄を設けている。 アレルギー対策は、入所時に面談をして栄養士とともに状況把握をしている。また、食器についても使いまわしをするとアレルギーを引き起こす可能性があるため、個人専用の食器を使用している。</p>

委員	食育の中で、食物がどのように作られているかを教えているか。
事務局	公立保育所ではミニトマトの栽培、民間では田植えや茶摘みを行っている。その他「もぐもぐタイム」という事業も実施している。 今後は、栄養士が園児に食べ物に関する話をする機会を設けていけるよう検討していきたい。
事務局	(3) その他 ※その他、委員から意見等があるかの確認  意見なし
事務局	4 閉会